



1

中村県政3期目スタート。  
新岩手県総合発展計画の仕上げに後期実施計画策定へ

4月12日行われた統一地方選挙・知事選で現職の中村知事が県民の圧倒的な支持を得て3選を果たした。

3期目を迎えた中村県政は対話の県政をさらに進め、道路網整備、産業振興、高齢者対策などの充実に取り組んだ。さらに新岩手県総合発展計画の総仕上げを図るため、63年度からスタートする後期実施計画の見直しに着手。21世紀を展望した住みよい郷土づくりに、県民の期待が高まっている。

特集

いわてグラフ創刊500号  
岩手・1987

歴史に1ページを刻む1987年も、あと1カ月で幕を閉じようとしています。

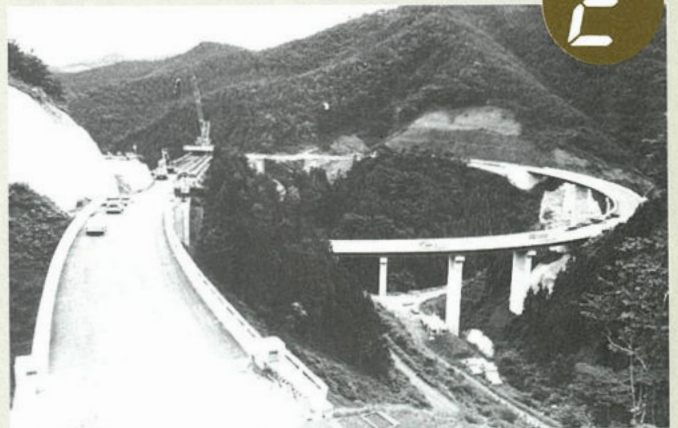
ことしも県勢は高齢化、国際化、高度情報化が進展し経済社会情勢が変化していく中であって着実な発展をみせました。

今回は、恒例となっている「昭和62年県勢ビッグテン」と、いわてグラフ創刊500号企画として昭和24年以降の主な出来事を掲載しました。

143万県民を乗せた「岩手号」が未来に向かって走っています。

振り返る光陰、そして未来は輝く岩手……。

2



県北横断道全線開通、都南大橋、久慈バイパス開通。  
東北横断自動車道「釜石・花巻間」法制化、三陸縦貫自動車道、八戸・久慈自動車道が高規格幹線道路網計画に盛り込まれる

県単高速交通関連道路整備が順調に進んでいる。県北横断道は、茅森工区（久慈市）が開通して整備を完了した（10月8日）。62年度は国道107号新珊瑚橋（北上市）の用地買収に着手するなど県南部や沿岸部を中心に整備が進められている。

国道45号線久慈バイパスの一部開通（9月9日）。都南大橋（都南村）の使用開始（11月10日）など、高速交通網の波及効果が広がっている。

建設省の高規格幹線道路網計画に東北横断自動車道「釜石・花巻間」、三陸縦貫自動車道、八戸・久慈自動車道の3路線が盛り込まれた（6月26日）。また、三陸縦貫自動車道「三陸道路」の起工式が行われた（11月18日）。



久慈国家石油備蓄基地着工。ウニの増産目指し北部栽培漁業センター始動。三陸沿岸地域リゾート構想に向け基礎調査を開始するなど三陸沿岸の振興に大きな弾み

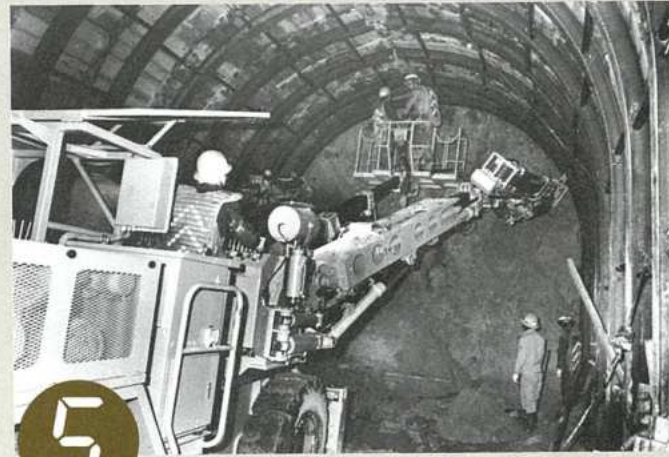
世紀の大事業といわれる久慈国家石油地下備蓄基地の建設工事が始まった(2月14日)。国の石油備蓄政策の一環として、日本地下石油備蓄審議会が行っているもので65年度完成、66年のオイルインを目指している。この石油基地に連動して、久慈港湾整備など産業基盤の整備も進められている。ウニの資源増大を目指す県北部栽培漁業センターが開所した(4月1日)。全国初のウニ専門種苗生産施設。本格的な操業となる63年度からは、年間500万個の種苗を生産し、沿岸漁家の大きな期待を集めている。三陸沿岸地域のリゾート基地形成を目指す県の基本構想策定作業が進められるなど、三陸沿岸の振興に向けた施策が展開された。

高度技術の「匠の里づくり」を目指す北上川流域テクノポリス指定。全県テクノ化へインパクト

北上川流域テクノポリス開発計画が承認された(9月24日)。昭和70年を目標に、北上川流域の地域に高度技術工業集積都市をつくるもの。対象地域は花巻、北上、水沢、江刺の4市と金ケ崎、江釣子の2町村で、盛岡市を田都市としている。この実現に向けて産業界、大学、自治体が力を合わせて取り組み、本県産業の高度化を進めていくことになる。



3



5



4

新県立中央病院、盛岡赤十字病院移転新築など地域医療体制ますます充実。腎不全対策に県民の愛の力結集し「いわて愛の健康づくり財団」設立

県立医療(28県立病院、9付属診療所)の中心となる新県立中央病院が、盛岡市上田に開院した(3月6日)。県立宮古病院建設計画と紫波病院の移転新築が決定するなど、県立医療機関の整備充実が進んでいる。

都南村に移転新築した盛岡赤十字病院が開院(12月1日)。腎臓バンク業務をはじめ総合的な腎不全対策に取り組む「いわて愛の健康づくり財団」が設立(11月4日)され、発症予防と腎臓移植推進に向け民間、医療関係者、自治体が一体となった取り組みがスタートした。



6

リンドウ名実ともに日本一。いわて野菜・リンゴ、県産牛なども中央市場でさらに高い評価。水稲4年連続豊作、県産木材の需要大幅増加など県内農林家の努力実る

水田農業確立対策がスタート。本県水田の4分の1が転作対象となる、かつてない大幅減反が実施された。厳しい農業情勢の中で、リンドウが長野県を上回る生産額5億円を達成し名実ともに日本一の生産県となった。

レタス、ほうれんそうなどの重点6品目を柱にした「いわて野菜」は、中央市場で高い評価を受けている。また、全国肉用牛枝肉共進会で、前沢牛が肉質日本一に輝いた(10月23日)。

10月15日現在の水稲作況指数が107の「良」と発表され、4年連続の豊作になるなど、農業関係者の努力が結実した年となった。

県内の木造公共施設の建設面積が全国シェアの11.4%を占め日本一となるなど、県産材の需要が着実に広がっている。

長寿社会対策指針に基づき施策展開。生きがいと創造の施設「福祉の里」整備本格化。老人福祉施設の整備、情緒障害児短期治療施設の開設など多様できめ細かな地域福祉を目指す

全国を上回る速さで進む人口の高齢化に対応した施策を総合的に進める「岩手県長寿社会対策指針」が策定された(1月26日)。保健医療から就業、要介護老人対策、地域社会の形成まで幅広い分野にわたって指針に基づいた施策が展開されている。

「福祉の里」(大船渡市)整備が進んでいる。61年度に着工した県立養護学校の建設は、来春の開校を目指して工事がほぼ完成。また、福祉施設建設の実施計画が決まり整備が本格化する。

心の病に悩む児童、生徒を対象にした県内初の短期治療施設「ことりさわ学園」が盛岡市上田に開園した(4月1日)。

特別養護老人ホームは「千年苑」(盛岡市)など2施設、デイサービス施設では「わがの里」(江釣子村)など5施設の整備が進められた。



7



8

アルpensスキー世界選手権大会立候補決定、冬季オリンピック招致に弾み。国際交流推進懇談会の設置。国際観光モデル地区の指定など世界の岩手に向けて着実な第一歩

9月11日、全日本スキー連盟は、1991年が1993年のアルペンスキー世界選手権大会の国内候補地として、「盛岡・栗石」を正式に決めた。初の国内開催となるだけに、1998年の冬季オリンピック盛岡招致運動の展開に大きな弾みとなった。

県は冬季オリンピック盛岡招致運動を積極的に支援するため、4月1日に「冬季オリンピック招致促進室」、5月27日に「岩手県スポーツ・文化イベント誘致委員会」を設置。招致運動の輪は広がりをみせ盛り上がっている。

「盛岡・八幡平地区」が国際観光モデル地区に指定された(6月30日)。県が取り組むべき国際交流の方向を探る「国際交流推進懇談会」を設置(10月9日)するなど、国際化に向けた取り組みが展開された。

県名古屋産業センター開設。観光、経済、文化、企業誘致など中京圏との交流促進に期待集まる

愛知県名古屋市に「岩手県名古屋産業センター」を開業した(4月1日)。県外の機関としては東京、大阪、北海道に次いで4番目の事務所となる。

名古屋地域は、古くから岩手とはつながりのある地域で、名古屋産業センターを拠点に中京圏との産業経済、文化、企業誘致などの交流促進に大きな力になるものと期待を集めている。



9



10

国体レスリングで石川、スキーで土谷両選手優勝。高校総体スキーで竹鼻選手2冠、バドミントンで渡辺選手日本一。全日本女子弓道で高橋選手、太平洋柔道で阿部選手優勝など県勢大活躍

県内のスポーツ界は若い力の健闘が光った。2月に安代町で行われた全国高校総体アルペンの部で、竹鼻建選手(栗石高校)が大回転、回転の2冠王に輝いた。国体成年女子2部クロスカントリー5kmで、土谷美保子選手(リクルート)が優勝(2月19日)。

全国高校総体バドミントン個人戦で渡辺清一選手(花北商業)が初優勝(8月6日)。全日本女子弓道選手権大会近畿の高橋良子選手(盛岡農業・教員)優勝(9月23日)。太平洋柔道選手権大会女子66kg級で阿部由記子選手(釜石市・小佐野中)初優勝(9月26日)。沖縄国体レスリング48kg級で石川真一選手(太田の園)が優勝するなど県勢は大活躍をした。



# おかげさまで500号

いわてグラフが創刊500号となりました。第1号は昭和24年7月11日。「広報いわて」のタイトルでタブロイド版4頁、新聞型の広報紙が発行されてから38年の歳月が流れています。

戦後の復興から高度成長期、そして14年後に迫った21世紀へ向けて発展する岩手の姿を、広報紙のつづりの中から振り返ってみました。



昭和24年 (1949)

創刊号には、当時の進駐軍岩手民事部報道課D・W・マッカーディー氏が「発刊の祝辞」を、国分謙吉知事が「いわて広報の発刊によせる」と執筆。主な記事として「県財政57億、52%は水害復旧費」などを掲載している。



昭和26年 (1951)

北上水系の治水治水対策と発電計画を進める「北上特定地域」が正式指定となる。県有買付家畜5,000頭を活用した「主畜農業園」の確立。県立盛岡短期大学の開校。当時、東北一を誇った県営ブランドが盛岡市上田に完成した。



昭和27年 (1952)

昭和26年に正式指定された「北上特定地域」が、国土総合開発の第1順位で取り上げられ全国の総合開発のモデルケースとして注目された。石淵、田瀬、葛根田、石羽根発電所の建設が始まり、電源開発のスタートを告げる。



昭和28年 (1953)

雑誌型12ページの広報いわて冷害特報われ泣きぬれて稲を焼き捨て冷害に襲われる。平年作の67.4%、被害総額54億円。北上特定地域の中心となる5大ダムの一つ「石淵ダム」が完成。戦後のセメント不足と基礎岩盤が弱いため、石を使った日本初のロックヒルダム。また湯田ダムも着工した。

**編集メモ**  
北上川の洪水  
国分知事が宮城県知事と席を同じくしたときの話。談たまたま北上川水害のことにおよび、その対策や復旧やらに頭を悩ました折、お隣さん「岩手さへ水を流してよこさなければ、水害の心配など、いっこうなく、来る秋も来る秋も豊作なのに……」と、ちらり国分知事の横顔を……  
そういうことには人後におちない国分知事さすれば、お隣りさん、そのようにそちらが豊作になるのは何故かご存知か、それもみんなおらの方でせつかく注いだ肥料を、その水が運んでくれるおかげだんべネ。ホンにおらこそ、その水がにぐらしい……と白眉をびくびく。  
北上川の洪水が文献に現われてから既に百数十回、その度にせつかくの肥料が下の宮城県にただ流れていくのはなんともおしいもの。されば治水だけは何をいっても大切。  
24年12・21(広報いわて17号)



昭和25年 (1950)

12月21日発行の1950年回顧特集号は初の県勢ビッグテンを掲載。この年を「建設の年」としている。北上川総合開発計画の石淵、猿ヶ石(田瀬)両ダム着工。県立病院の発足。釜石線開通。食糧自給率の話題が紙面を飾る。



昭和29年 (1954)

広報いわては9月20日発行で100号。記念特号として林業を特集。県有林造成40カ年計画に着手。盛夏8月天皇皇后両陛下がご来県。町村合併の結果、花巻、水沢、北上、久慈、遠野、陸前高田市が誕生、11市となる。



昭和30年 (1955)

空前の大豊作。181万石の収穫は平年作の3割強の増収。農業関連の総合施策の成果が実る。阿部千一知事誕生し県機構改革に着手。地方事務所全廃、県税、福祉、建設事務所を設置。国民健康保険が全県で実施された。

**編集メモ**  
空前の大豊作  
今年は戦前、戦後を通じて空前の大豊作といわれ、百七十万石、あるいは二百万石論さえ出ている。これまでの最高は昭和二十八年の百四十九万石だから、いかに天候に恵まれたかがうかがわれる。そして今は収穫期……稲刈りに、取り入れに、働く農民の顔にも、隠しきれない喜びがうかんでいる。  
この大豊作こそ、最も望まれていたことであつた。  
30・9・20(広報いわて112号)



昭和31年 (1956)

県財政再建計画なる。7月28日、八幡平地域が国立公園に指定。昭和29年に指定された陸中海岸とともに、県内では2つの国立公園ができた。岩洞ダム、宮古港の1万ト岸壁工事に着工。町村合併計画96%達成。28年当時の221市町村が、11市27町31村となった。



昭和32年 (1957)

東北開発三法(東北開発促進法、東北開発株式会社法、北海道・東北開発公庫法)が成立。本格的に東北地域の開発政策が実施されることになった。北奥羽地域が国土総合開発の特定地域に指定。農業機械化が大いに進んだ年。



昭和33年 (1958)

北奥羽特定地域の開発計画が閣議決定され、二戸高原の大規模機械開墾の着工など東北地方の開発に着手。北上特定地域総合開発計画は事業着手から5年を経て完成率26.5%に。広報いわて2月号で「開発と岩手」を特集。



昭和34年 (1959)

県産米が念願の200万石(30万ト)の大台を突破。内陸部と沿岸部を結ぶ山トンネル有料道路が開通。滝沢村に精薄施設みたく学園が開園。民間テレビ局の岩手放送が開局し県内もテレビ時代を迎えた。



昭和35年 (1960)

チリ地震津波襲来。死者57人、行方不明5人、被害総額115億円を超える大災害。6年連続の大豊作(34万ト)。花巻市に飛行場の設置が決定。南米/パラグアイ岩手村の建設に向け、11世帯57人の県人が集団移住。県立中央病院が盛岡市に完成。移動県民室がスタート。





財政再建の足どりを紹介

昭和36年 (1961)

県財政の再建達成。昭和31年から5年間に3億円の財政再建債を償還し赤字解消。県産米34万トンを突破。三陸沿岸大火・強風災害が発生、死者5人、被害総額74億円の大事事となった。東北本線仙台一盛岡間電化工事始まる。



岩手県庁・県議会議事堂が新築落成

昭和40年 (1965)

東北本線(仙台一盛岡間)複線電化工事が完成し、東京・盛岡間が7時間10分で結ばれた。三陸縦貫鉄道起工、東北縦貫自動車道の建設基本計画が決定。45年国体誘致体制が進み、県営運動公園に陸上競技場が完成した。



県庁舎新築に

昭和37年 (1962)

国鉄三陸縦貫鉄道建設路線に昇格。高校生の急増対策で、大船渡工業や盛岡一高などの教育施設を充実。県庁舎の新築工事に着手。昭和42年の第22回国体誘致に向け、県民の気運が高まる。「岩手県経済計画」が策定された。

編集メモ  
道路整備

移動県民室で「道路を新しく通してほしい」との要望が出されます。千田知事は「まず自分たちでリヤカーでも通れる道路をつくってほしい。地域でそのような努力をすれば、県としても皆さんの要望にこたえたい」との話があった。移動県民室や陳情書でも道路に関するものが一番多い。知事は「自分たちの家の前の道路くらいは補修とか、小さな穴ぐらいはふさぐとかしてほしい」と、よく言う。とにかく何でも、県でやれ、市町村でやれとの要望が多くなっているが、自分たちでやれることは、自分たちの手ですることが住みよい郷土をつくるためには大切なことだと思えますが、どうでしょうか。

40・8・1 (広報いわて24号)



国体を岩手に、誘致運動を展開

昭和38年 (1963)

統一地方選挙で千田正知事誕生。後進性の打破と住民に直結した県政を目指し、新県政推進の機構整備を実施。花巻空港完成。松川地域に日本初の地熱発電所の建設が始まった。十和田八幡平国立公園「網張地区」が国民休暇村に指定された。



四五年国体岩手に内定する

45年国体の内定に万歳と喜びの声

昭和41年 (1966)

45年国体岩手に内定。昭和28年「岩手に国体を迎えよう」とスタートした国体誘致運動から14年目にしての成果。わが国初の松川地熱発電所が操業を開始。田沢湖線全線開通。沖縄に「岩手の塔」を建立した。



45年岩手国体決定後を特集

昭和42年 (1967)

岩手国体が正式決定。県営体育館の完成など準備体制が進む。四十四田ダム貯水を開始、北上川清流にもどる。県産米史上最高の44万トンを確保し大豊作。約70億円という本県史上最大の規模で行われたチリ地震津波対策事業が完了した。

月刊「いわて」



「月刊いわて」としてスタイルを一新した43年11月号

昭和43年 (1968)

東北本線の全線複線電化なる。東北縦貫自動車道仙台・盛岡間の施行命令が出るなど、夢の「ハイウェイ」実現に期待が集まる。金色堂が世紀の大事業といわれる修繕を終え復元した。全国初の県内牛生産公社発足。久慈新港開港。



リハ一切ル大会を県内各地で開催、国体成功に気運盛り上がる

昭和44年 (1969)

県勢発展計画樹立、北上山系の総合開発胎動など、昭和50年を目標にした大県構想がスタート。岩手国体に向け県内各地で「リハ一切ル大会」が開かれ、国体成功に県民一丸となった取り組みを展開した。



大健闘の県勢。岩手国体を特集

昭和45年 (1970)

県民一人ひとりが待ち望み、精一杯の努力を傾けて勝ちとった岩手国体の栄光。快晴の10月10日、140万県民の期待に県勢は、天皇杯の栄誉に輝いた。岩手の飛躍的な発展を約束づける大県構想実現に力強い一歩を踏み出した年となった。

編集メモ  
ポスト岩手国体

岩手国体が終わった。「誠実・明朗・躍進」を旗にするに、百四十万県民のすべてが何らかの形で参加して実施した国体は大成功で幕を閉じたのである。国体は五十年に一度しかまわってこないという。昭和四十五年に開催された岩手国体はいかに行われたか、ここに特集をくんだところである。

ポスト国体という言葉をよく聞く。北上山系の開発、社会福祉の充実、農林漁業、工業、商業の構造改善、教育の振興といった大がかりな事業が次々と進められようとしている。新しい農業基本計画も十年後の岩手の農業のあるべき姿を目標に進められようとしているのである。

45・11・1 (月刊いわて26号)



創刊300号の表紙を飾る

昭和46年 (1971)



水沢市の火防演習

東北新幹線工事計画決定、51年完成を目指し着工。全日空機と自衛隊機が磐石町上空で衝突、死者162人世間航空史上最大の惨事に懸命な救援活動を展開。老人医療費の無料化を全国に先がけて実施、お年寄りに朗報となった。



11月11日県公会堂で「県政百年記念式典」開催

昭和47年 (1972)

明治5年に岩手県が発足してから100年を迎えた。国道45号線の全面改良舗装、岩泉線宮古線の部分開通があり、三陸の交通網整備が大幅に進んだ。岩手国体成功の原動力となった国体県民運動を県勢発展の推進力にするため「新しい岩手をつくる県民運動」がスタートした。



4月1日待望の県民会館オープン

昭和48年 (1973)

県民が明るく豊かな創造的生活を目指す「新県勢発展計画」を策定。東北縦貫自動車道の着工、東北新幹線東回り(八戸経由)決定など岩手の未来をひらく交通網の整備が進む。県民文化の殿堂県民会館がオープンした。



熱心な歓迎にご満足

植樹祭でご来県の皆様、県内をご散歩  
天皇、皇后両陛下を迎え全国植樹祭開催

昭和49年 (1974)

湯田ダム、衣川防災ダム、仙人発電所の完成など産業基盤整備が着々と進む。岩手と秋田を結ぶ1級国道46号線開通。本県独自の構想による「岩手県総合開発計画」を策定。県章・県民の歌・県鳥が決まる。



広田「いわて」10

昭和39年 (1964)

3月27日花巻空港が開港  
東京オリンピック聖火リレーが県内に到着





仙岩トンネル貫通

千田県政4期目スタート。三陸縦貫鉄道久慈・普代間開通、国道46号線仙岩トンネルの貫通など幹線交通網の整備が進む。沿岸部に大雨、約46億円の被害。水稲史上最高の48万トンを大豊作となる。

昭和50年 (1975)



県土全域が冷害に襲われた

冷害の年。異常低温と日照不足で昭和9年以来の大被害。被害額は415億円となり、救済に全力投球。仙岩トンネルなど秋田と結ぶ横断道路完成。旧松尾鉱山跡に新中和处理場を建設し、北上川清流化対策が本格化。第三次県勢発展計画を策定。大幅な機構改革で県民と県政を直結する地方県民室を設置した。

昭和51年 (1976)



国道106号全線開通

沿岸と内陸を結ぶ待望の国道106号が全線開通。東北自動車道岩槻(埼玉)・盛岡南間が結ばれる。釜石湾口防波堤の建設始まる。県議会開設100年。県農業に新たな転機を迎える米の生産調整が実施された。

昭和53年 (1978)



中村新知事就任

活力ある開かれた県政を基本姿勢に中村新知事誕生。8月の集中豪雨、10月の台風は被害額200億円を超す大災害に。東北自動車道盛岡南・滝沢間が開通。花巻・札幌間に定期便が就航し、高速交通網が充実。栽培漁業センター(大船渡市)がオープンした。

昭和54年 (1979)



県政の一年

本県選出の鈴木善幸氏が総理大臣に就任。県政推進の指針となる県総合発展計画が決まる。冷害による被害額538億円で、平年作の56%に落ちこむ戦後最悪を記録。県立博物館、県高次救急センター完成。サケの漁獲高が1万トンを突破した。

昭和55年 (1980)



青年の船初出航

三陸縦貫鉄道を地元の手で実現させる第三セクター「三陸鉄道株式会社」設立。2年連続の異常低温と台風15号で農作物の被害甚大。初の県青年の船出航。北上川5大ダム建設の最後を飾る御所ダム完成。明暗大揺れの1年。

昭和56年 (1981)

6月23日、東北新幹線盛岡・大宮間開業、田沢湖線の電化開業、三陸鉄道工事再開など、高速交通時代の幕開けとなった。新日鉄釜石ラグビー史上初の4連覇日本一。自然の宝庫「早池峰国定公園」誕生。婦人の船初出航。



高速交通時代の幕開けを告げる東北新幹線

昭和57年 (1982)



ジェット化された花巻空港大阪便

空の玄関、花巻空港に待望のジェット機が就航。東北自動車道が県土を縦断、新日鉄釜石ラグビー5年連続日本一。久慈市など県内各地で林野火災発生。東芝、富士通、松下通信など優良企業の進出・拡張相次ぐ。少年の船初出航。

昭和58年 (1983)



三陸鉄道華やかに開業

全国初の第三セクター「三陸鉄道」開業。皇太子ご夫妻を迎え、第8回全国育樹祭開催。大船渡高校が選抜高校野球でベスト4入り。水稲5年ぶりの大豊作。21世紀への飛躍を目指した新岩手県総合発展計画を策定するなど明るい話題の1年となった。

昭和59年 (1984)



北東北時代を告げるスタート

4月14日、東北新幹線上野乗り入れ実現、新花巻、水沢江刺高野新駅も同時開業。花巻・名古屋空路開設で充実する高速交通網。常陸宮ご夫妻を迎え、第8回全日本ホルスタイン共進会を新装の岩手産業文化センターで開催。

昭和60年 (1985)

60年代

編集メモ  
岩手の新しい1ページ

四月を迎え三陸鉄道が開業一周年となった。四月十三日にはグリーンピア田老がオープンし、三陸振興に一層弾みがつく。一方東北新幹線の首都直結が実現し、中村知事が提唱した東京都の「ふるさと交流」もいよいよ本格化する。岩手にとって、まさに新しい一ページが開かれた感があり、県民の期待は大きい。60・4・1(いわてグラフ6月号)

県民の期待を集め30年ぶりの大幅な機構改革を実施し12地方振興局を設置。東北自動車道八戸線開通。沿岸と内陸を結ぶ8ルート12路線の完成第1号、県北横断道開通。水稲3年連続豊作とレタス、リンゴなど中央市場で高い評価。県内スキー場が冬季観光の主力となった。



地域活性化の大動脈として期待が大きい県北横断道の開通

昭和61年 (1986)

私の名前は「いわてグラフ」。昭和24年7月11日生まれ38歳です。38年間のうちに姿、形もさまざまに変わりました。「広報いわて」と命名され、そして「月刊いわて」、今は「いわてグラフ」と呼ばれています。私を県民の皆さんに送り出しているのが歴代の知事です。さらに多くの広報担当職員が私を作りあげてきました。私は印刷文字や写真で作られていますが、原稿用紙の段階では消しゴムでゴシゴシされたり、赤いペンで遠慮なく汚されます。本当に大変な目にあうんですよ。私の兄弟は今月号で500人となりました。全員を紹介できないのは残念ですが、今回は書庫の中で眠っていた仲間を数人、紹介しました。これからもよろしくお願ひします。

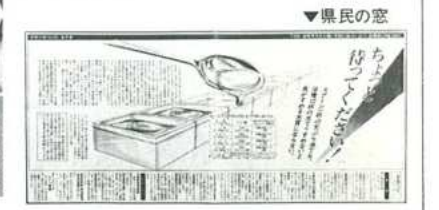


▲県勢画報いわて

▲テレビ広報では「テレビ県民室」「みんなのひろば」を放映



←いわてグラフ



▼県民の窓

50年代

編集メモ  
大いなる遺産

地球が生まれてから約五十億年の歳月を経て、今の地球の姿に変わったという。その人間と自然との調和の中で環境は進歩、生長してきた。今日、豊かな土壌を基盤とする農業の発展をみて、父祖が築き上げた遺産である。不況のさなか、冷害や不漁に襲われた。試練の幕開けとなったが、大いなる遺産を後世に引継ぐために、今年もがんばらなくては。52・1・1(月刊いわて2月号)



11月19日、沸き上がる歓声のなかで一関・盛岡間開通。高速大量交通時代到来。東北自動車道一関・盛岡間が開通。花巻一大阪直航便就航。2007時代に対応し、海洋法対策本部を設置。記録的な大雨で被害額79億円、復旧対策に万全を期す。岩手大学に人文社会科学部創設。

昭和52年 (1977)